

しらかべ



2016年7月15日 人権・同和教育部発行

盛夏の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は6月に行った「人権・同和教育 LHR」での学習内容を学び終えた生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。また、LHR 後に家庭で話し合った内容や「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などがありましたら、別紙返信用紙にご記入の上、1 学期保護者懇談の折に担任の先生にお渡しください。



「第 63 回四国地区人権教育研究大会」一生徒が主体的に取り組む人権・同和教育一

7月7・8日に高知県高知市において第63回四国地区人権教育研究大会が開催され、坂出高校の取組を報告しました。昨年、香川県人権・同和教育研究大会で「生徒が主体的に取り組む人権・同和教育 LHR の展開」を報告し、今回は、その続きで各学年の「現地訪問学習会」での学び、異学年の生徒同士の学習会、人権通信を通じた保護者啓発などの取組を報告しました。大会を通して、「学習していること、直面していることが、誰の問題であるかを理解し、自分の中で向き合い、ともに学び合う仲間づくりを通して他者へ広げていくことが差別の克服に向けて進んでいくことになる。実際に解決することが実践力ではなく、結果がどうであれ、次の行動に移ることが実践力である」と学びました。徳島県内の高校を卒業した大学生が、「生徒に対して“実践力を磨きましょう”と言われても、人権・同和教育に関することを何も知らなければ磨きようがない。私たちはまず、知ること、理解することから始まる。生徒は、今、現実に存在している差別は誰の問題なのかを問いかけられると変化するので、先生方は、生徒目線で人権・同和教育を行ってほしい」との意見がありました。坂出高校では、生徒が主体的に学ぶ人権・同和教育を推進しています。これからも生徒と先生がともに学び合う人権・同和教育を推進していきたいと考えています。また、11月には大阪で開催される第68回全国人権・同和教育研究大会で報告する予定です。今後ともご協力よろしく申し上げます。

8月は「同和問題啓発強調月間」です

香川県人権啓発推進会議では、1965(昭和40)年8月に「同和対策審議会答申」がなされたことから、8月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。同和問題は、我が国社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別により、今日でも、憲法で保障されている基本的人権が十分に保障されていないという重大な社会問題です。同和問題の解決を図るためには、すべての人々がお互いの人権を大切にすることの重要性を正しく理解し、行動することが必要です。

この夏休みを、お子さまと一緒に人権について理解を深めるきっかけにしてみませんか。



【1年生一学期の取り組み】

◆ 「人権スローガンを作ろう」

6月8日に、入学後、初めてとなる人権・同和教育LHRを行いました。HR委員が司会進行し、「人権とは何か」を改めて考えるとともに、クラス独自の人権スローガンを作成しました。自分が今欲しいものを各自で列挙した後、今度はグループになって、誰にとっても「必要不可欠なもの」を考えました。自分中心の考えから他者への思いやりへと視点を広げていくことをめざしました。その後グループで「過ごしやすいクラスになるための5か条」を考え、それをもとにクラス独自の人権スローガンを決定しました。グループでの話し合いが初めてとあって、生徒たちはお互いにイキイキと意見交換し、班活動を楽しんでいる様子が見られました。クラス全体が団結し、よりよいクラスづくりをめざす良い機会となっていたと思います。以下に、今回決定したクラスの人権スローガンと、事後アンケートから生徒の感想をいくつか紹介します。

《クラスの人権スローガン（一部）》

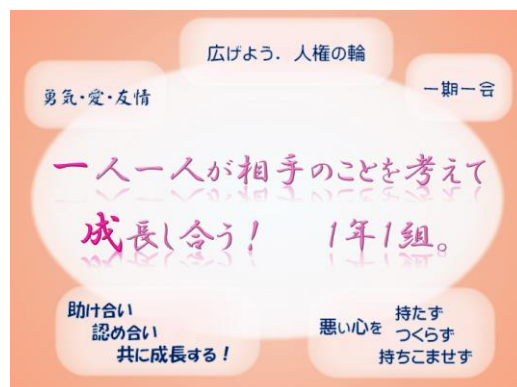
「なるしかない みんながみんなの 助動詞に」

「友情を 分厚く広く 元気よく」

「『全員で』を大切に」

「25 😊 ～わかりあって わかちあって～」

などです。



《生徒の事後アンケートより》

- いろいろな価値観があって、面白いと思った。みんなが過ごしやすい5か条を考えて、そこからクラスの人権スローガンを作るのは難しかった。
- 普段はあまり考えないことなので、新鮮に感じた。これから1年間、皆が楽しかったと思えるクラスにするために、私も頑張りたい。
- みんなで話し合うことで、クラスの絆ができたと思う。このクラスでよかったと思えるような、明るく楽しいクラスにしていきたい。
- みんなの意見を聞く限り、坂高生は皆時間と勉強に追われ疲れているということが分かった。過ごしやすいクラスにするために、今日話したことをそれぞれが心がけることができればいいと思った。私も微力ながら頑張りたい。
- クラスの中ですべての人と分かち合えることはとても大事なことで、難しいことだと感じた。自分だけ主張するのではなく、他人も尊重して高め合っていけたらと思う。

◆ 「さまざまな差別Ⅰ ～ハンセン病回復者を取りまく問題（第1回）～」

7月6日、「ハンセン病とその差別の歴史」について、学びました。昨年の6月にNHKで放送された「探検バクモン～ハンセン病を知っていますか」と資料をもとに、ハンセン病とはどのような病気、いかに不当な差別と偏見を受けてきたか、また、らい予防法が廃止されてからも、現在になお残る問題について学習しました。中学校で学んでいる生徒も多く、その再確認と新たな学びができました。

8月25日には各クラスのHR委員が、高松市にある国立療養所大島青松園を訪問し、現地学習会に参加して理解を深め、9月に行う2回目のLHRにつなげていく予定となっています。